

◆一一〇号(二〇二三年夏号)に小野澤さん布宮さんが拙歌集『白き川』の評の中で、もろさわようこの「志縁」という造語にふれている。『沖繩ともろさわようこー女性解放の原点を求めて』の共著者である河原千春さんと源啓美さんが三月十三、十四日に長井市(山形県)にくるようになった。女性史をもろさわようこの実践から研究している河原さんが、修士論文を書くための取材らしい。もろさわの「歴史を拓くはじめの家」で知り合い、三十年余の友人である源さんは一月に転んで肩を骨折したというのにどうしても来たいという。研究の役に立てるかどうか心もとないが、もろさわの『信濃のおんな』を読んだ日から四十年余りにわたる己を振り返っている。「今あるところのものでない、あるべき姿を求めて繋がった『志縁』の人々」を思い浮かべながら。ここまで書いたところで、源さんからもろさわさんが亡くなったとメールが入った。九十九歳という虚をつかれた思いだが、源さん河原さんの共著出版から半年余り、思い残すことなき旅立ちだったと思う。

梅津純子

◆まだ先のことと思っていた確定申告の期間になっている。市内会場の文化センター駐車場の係員に聞いて、会場内、やはりe-Tax(電子申告)になっているようだ。パソコンを持ち込んでいる。じぶんは、事前に、書類がそろったところで、最寄りの税務署内、税務相談のかたちで、確定申告をすませている。これは例年、そうしている。また、サポートをうけながらだが、e-Taxでもある。スマホからのe-Taxも可ということ、(すすめられてもいるところ、)そういう姿もある。じぶんはスマホをもたないので、パソコンからである。書類上ながら、一年の生活のおさらいになった。少額だが、(国税の)還付もある。ただ、あと何年、こんなことができるだろうか?ともおもう。七十五歳になって、運転免許証を更新するにも、高齢者講習が求められた。小野澤繁雄

◆「とにかく居てくれればいいから。」……それじゃ漬物石かと内心毒づきつつ始めた土曜日の図書館アルバイトも、半年経ってだいぶ勝手がわかってきた。世の中にはいろんな出版物があり、分類に従ってきれいに並べているのだなと感心。一方、分類法は便利な半面、探したいものの全体が見えないことにも気づく。例えば、近年話題の発達障害について知ろうとすると、教育・社会福祉・医療・随筆・文芸・芸術など様々なジャンルの本が書架に散在している。そこで司書の出番、なのだろう。利用者の満足度が増すよう、素人の自分こそプロとのつなぎ役になりたいと勤務している。

大橋千佳子

◆ここ数日、鉛色の空から白いものがちらついている。寒の戻りと言うのだろうか。咲き始めた福寿草は花弁を引っ込めてしまいそうだし、クリスマスローズも苦しそうだ。あんなにほかほかとした陽気だったのだから、びっくりしていることだろう。でも、三寒四温とはよく言ったもので、一歩一歩春が近づいているのは間違いない。この雪雲が去っていけば、もう春である。

「待春や通学少女の鈴が鳴る」

神村ふじを

◆思わず、独りで歓喜の声を上げた。大谷翔平さんの結婚報道である。きっぱりと発表した爽やかさにも心打たれた。一昔前、いや、つい先ごろまでは「日本人とは、会話がなく、ただ、ニタニタしているだけだ」と言われていた。政治よりもスポーツが遅しく国際人として活躍してくれた。大谷翔平さんのように、堂々と技量・人格ともに尊敬される日本人が出てきましたね。 河村郁子

◆白鷹町の有志で作った映画「出稼ぎの時代から」が、昨年十一月「地方の時代」映像祭で、「市民・学生・自治体部門」において奨励賞を受賞した。この二月十八日、その記念の集会を開いた。出稼ぎの現場であった川崎市宮前区の方々とすでに交流が始まっており、宮前区まちづくり協議会との共催である。元NHKアナウンサーの長谷川勝彦さんによる朗読（三浦哲郎著『沈丁花』）、宮前区出身の映像作家 小倉美恵子さんのスライド上映、ジャーナリスト永田浩三さんの講演と、

盛りだくさんの内容だった。会場の白鷹町文化交流施設「あゆーむ」のホール二百席は、ほぼ満席となり、熱気にあふれた。来場者からは、興味深くて余韻の残る良い催しだったという声が多々寄せられている。映画製作委員の一人だった私はとしては、「祝賀会なんてしなくても」と思っていたが、監督の本木勝利さんは先のことを考えていたのだ。一つは町ぐるみで（行政を巻き込んで）宮前区との交流を活発にすること。もう一つは、現在進めている本づくりを多くの人に知らせ、出版の折には買ってもらう、ということだ。野党の町議会議員を十一期も務めた本木さん、なかなかの策略家だな。それに彼の応援団がものすごく多いのだ、特に女性に。改めて感心した次第である。

「地方の時代」映像祭は一九八〇年に始められた。九六年には、山形放送が制作した「届け！クマタカの叫び」が、「放送局部門」で優秀賞を受賞している。当時、朝日連峰の山中では大規模林道工事が行われていた。それに反対する白鷹町の「葉山の自然を守る会」の活動を取材したものだ。二〇〇一年には、白鷹町教育委員会が製作した深山和紙についての記録映画が、「市民・学生・自治体部門」で奨励賞を受賞した。深山和紙は山形県無形文化財に指定されている。こうして見ると、白鷹町も捨てたものではないな。

新野祐子